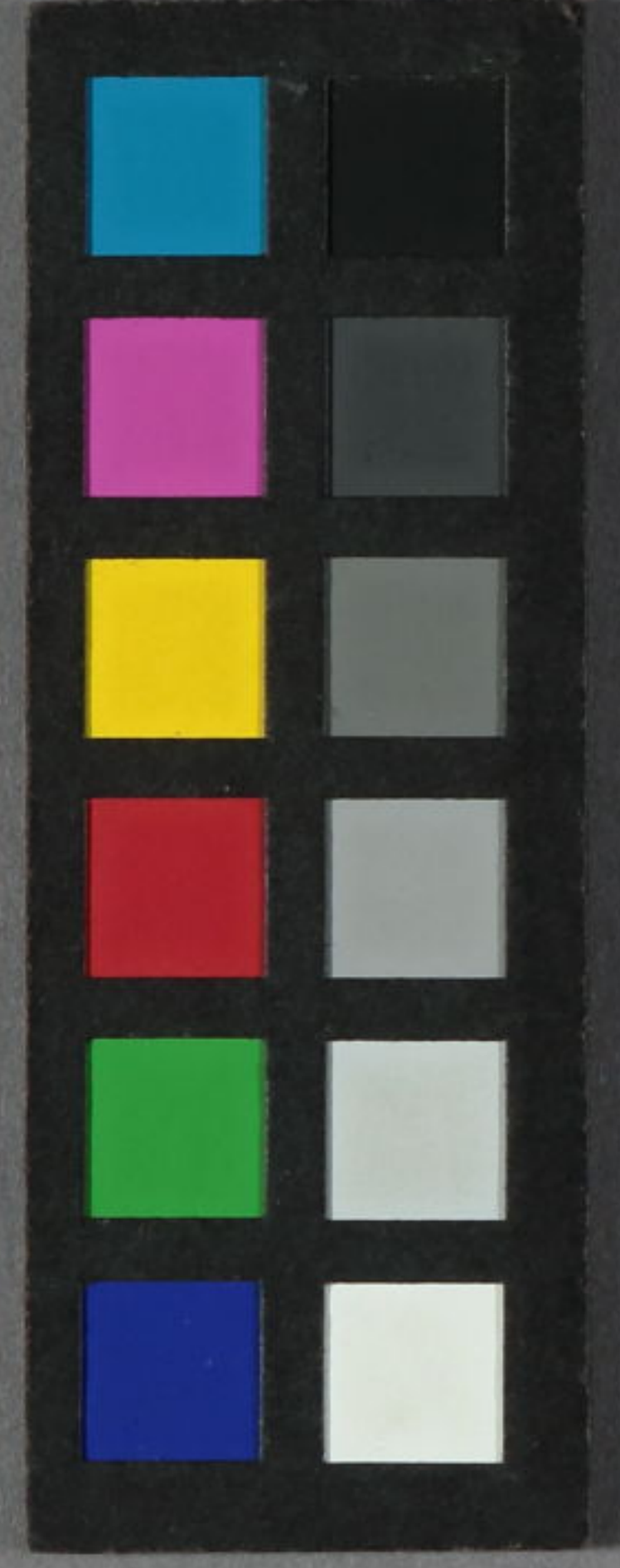


梅室翁紀年錄



大祥忌迄善

梅室公の紀年録

尾張 春松編



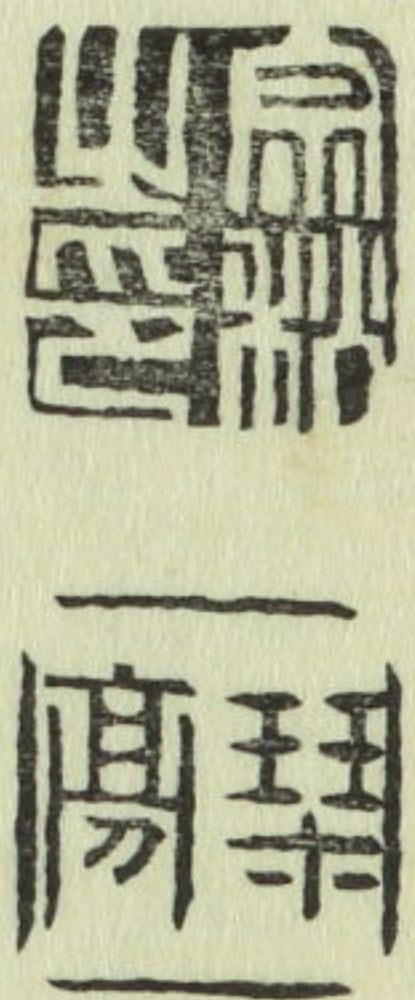
序

梅室丈人善クシ俳歌ヲ名聲滿ツ天下
其湯遊既ニ久ク所與ニ交ル又極メテ多シ矣
壬子冬十月遂ニテ以テ天年ヲ歿ス于京
師頃其佳春松與友人野鶴謀テ

摺據丈人遊蹟彙為一卷欲
傳之同志展而觀之訪其隱
倫於林下尋其騷人於畎疇
徬徬得臨水登山吟花嘯月之
態粲然呈露如親接其人今

刻將成囑序於予固鄙陋
雖不嫻文辭以嘗與丈人交熟
之故不肯拒聊記其由冠諸卷
端春松山本氏尾張人從丈人
得此道之妙

嘉永甲寅復四月宗秋誌



南豊野尻恭書



副言

- 一 此書宗匠の筆記あるを世にいましむ可の
夜話の少々の年序を索引してしるは
- 一 天の橋立遊説月々階の梅見おと人の小伝次
此れを筆記記のせに又年月を注ししる
ありさばうゆゑの省えを外務更しきこと
ありしに
- 一 筆記の用北きことありおれに刪きしる
しるそのまじきこと多しなり又又の通
せしる文の不文なるはるすし罪なり

一 宗匠の作法抄をいふの道小研精刻意
ありしをなまをり状記をよめせんと
抄にあらたにのまを

一 嚮ふ様抄を——枯菊集の——あり
梅さなぬら年記の大既木を——さし
たれと筆記の匣中小蠹魚となりしを
そと先かきを夜大祥三途海のそと小
を松子ら上本をるころふをなりぬ

野鶴識



梅室翁肖像縮
猿山人 画

俳諧傳系

芭蕉公羽

傳見干諸書今畧之

北枝

加賀人 森氏 号 翠墓
享保三年五月十二日没 墓于金澤高道町心蓮社

希因

加賀人 和田氏 号 暮柳舎
寛延三年七月十日没 墓于金澤野田山

闌更

加賀人 高栗氏号南無菴年化房二夜菴桃亭 寛政五
銅駝殿有命為宗匠住于洛東芭蕉堂
同十年五月三日没墓于東山高基寺月真院

素信

梅室宗匠紀年録

山本春松孫

幸梅野詣技

宗匠姓名梅氏ハ櫻井諱ハ能元初雪権後素信と稱信初

梅室又方圓齋陸陸之陸也陸号阿り明和ハ和月

廿七日加賀金海并形不生也 知名次郎化矣新九郎

母ハ中村氏其先ハ大和櫻井の人相劔ハ名阿るをりて

加賀依 瑞龍院殿ハ召孔月俸の恩物ありて後劔刀を

以て世々國君ハ侍ハ

文化元

宗匠三十六病を以て仕を終一男子某可

初号素分

業をゆつて能治の遊小志より先開文先生小何社を
そと年何りこより根底をあよりて加勢の遊小遊歴

月四 宗匠三十九九月上京茂良よりと留杖成李ら

家子成年

月五 三月宇治の遊十一月京小より若井忍よりと

寓居 榎木町小移住 仙風日居

月六 甬小沼路山一轉居此阿梅室と号天口日居

十臺几仲万栖彦根の末待忠隣の義香 定社中入内

三月素子加察り上京 對作河来宇涯小令と文

劫て四時より上様

月七 世南 布施九日居十丈閑齋岱雲入門

月八 山幸町路の少轉居

月九 四月 銅駝御殿御會御通是子規管釜江戸下る

月十 四条坂町一轉居

月十一 榎木町三条の小堀昌庵庵移住其日京町

より七月二日素女死八月又昌庵よりと移 本海之芳

寓居 其道久藏上京

月十二 在六角齋屋町ト居杖榎木町松原の小一移居

杖耳日居

月十三 又居を憐れんは二月仙風杜菴身よりとに

芳村宗不とくのり乃和千屋柳宗不とくをり
寺山和子の浦小引杖

同十四 道彦孤山上京の父推本町三条の山持居

文政元 櫻多院駿翁馬来居士二十七廻忌加賀金持の人

上田氏号櫻菴寛政四七月十二日死 宗匠蒼帆李下の
ふいふの師あり

同二 五月次广以石法法遊歴三男近口常明まで

出家 一布上京

同三 寺大坂一福住方印号南来 九月中国遊歴

藝州に轉年

同四 渡村来

同五 留京 赤石院分四喜仙成十丈五維 伊勢尾張を

伊文三川吉田轉年

同六 四月廿七日江戸若松村小ト居

同七 三月名州鹿島詣

同八 二月より松五々々小刀根川を名持歴

六月 陽能 十一月持村町小俗一福居

同九 宗匠五十八 廿維数 坂園千屋来八月

十五日之更舎用送

同十 三月佐系村より赤金遊歴 成田詣

四月林野末 七月新町西井杏庵、移居

同七

正月新町山崎氏、移居 四月山代山中入湯
六月林野多少、移居

同八

四月新州七尾の移居 元和日行 九月
新町新町の移居 小橋院 日月本吉満の移居 大光

同九

宗匠古稿 梅室古抄 景成

同十

芭蕉翁百五十廻三引上合式之付 礪山末丁
宗匠を招く 三月八日加賀者杖大正古丸五段文
寛和同月廿六日大津お忌 四月八日より十二日

まてり件ちて 匠之進善向社無り 日廿百

系植木所之条の山の橋居 八月新町大光之る

同廿一 二月政系長刀鋒町西橋居 十月妹の園子入

同廿二 四月取州遊歴 七月重化羅信

同廿三 八月徳枝より徳所、後徳山信

同廿四 九月政系 四系柳多揚小ト居

同廿五 方圓附合集成

同廿六 同廿七 同廿八 同廿九 同三十

同十三 二月東院院縁の少收居 三月菘乳死
 八月八日伴契吉の楕の社中 菘乳遠三を付宗匠を
 招入杜我等 碓小法節 同日 同十五日 碓京
 増補方圓句集成

同十四 三月如契の大夢上京 宗匠命一を 櫻乳を
 獲一也 五月東院院四番の少收居 九月大坂林野
 社中菘乳遠三をのりて 宗匠を招く 同十二日
 他社無り 同十七日 櫻乳 櫻乳 櫻乳 櫻乳 櫻乳
 十月十二日 菘乳遠三 正尚 櫻乳 櫻乳 櫻乳 櫻乳
 法果 残香小記成 梅正法園の扁額を江戸

碓小附居

弘化元

六月 綱子辰丸生

同二

二月 伴勢津梅の社中 宗匠を招供

内外系言及 碓甲申小 碓京法良 同日

同三

白岩小申 碓京の長生寺

同四

二月十五日 西より 碓京 碓京 碓京 碓京

碓京 碓京 碓京 碓京 碓京 碓京 碓京 碓京

碓京 碓京 碓京 碓京 碓京 碓京 碓京 碓京

碓京元

二月 宗匠八十の契 碓京 碓京 碓京 碓京

碓京上京 加契系成

同二

江戸小死

お名朝の号を戻さる按子 九月本宮
宗匠僅主老る御所之廻り迄善執り

同三

大坂およむ在御小死

吉成宗匠の像を彫刻 四月辰夜を伴て
風光死 月坡卜居

同四

銅駝御殿建

四月十五日年来御造執心五殊務の旨
あり給ふ御ゆき一ちうり一を参殿と出御中とされ
御免状をとり

梅室
素信

俳諧之達者中興之
器也宜為花下宗匠者

御印

嘉永四年庚四月

同五

試年明良杜尊死 二月菅廟九百五十年

御神夏招峰喜式百負少社奉納 四月廿二日

銅駝御殿中天満宮御神夏御社奉納の御旨と仰付

度中之乞乞十負具^{中野法良辰丸} 月廿四日此語奉 殿

水冬冬の呉き多えうきこえより宗田あち

傍たさきうしよさのなやまきとあちあち

衣のくわん林もなりあちおちりあまをんをといひ

あけさきを医海ひひひ信擧して学林本皮のう

きくさうあちといひあちあちあちあちあち

邦らうれなを月といひよりあちあちあちあち

人々病ふ子さきうしよさのなやまきとあちあち

かこし長月十八日の如

ひくさうあちといひあちあちあちあちあち

今あちあちあちあちあちあちあちあちあち

とあち

十月廿日此度していささやうあちあちあちあち

あちあちあちあちあちあちあちあちあち

碑を造りてあちあちあちあちあちあちあち

おちあちあちあちあちあちあちあちあちあち

人々あちあちあちあちあちあちあちあちあち

そとあちあちあちあちあちあちあちあちあち

そとあちあちあちあちあちあちあちあちあち

分のかくやきつたに終るはれ蕉翁のまゝのなる
来やといふ

その戸のりまでまのむきこれ といふ蕉翁を

水々々のあともけいふ志々々んら此等かひや
奄然として午の刻の強 享年八十四

同日葬儀をいふみち所度小徳の小本 終るに
おまむ

方圓院梅室日窓居士

碑後

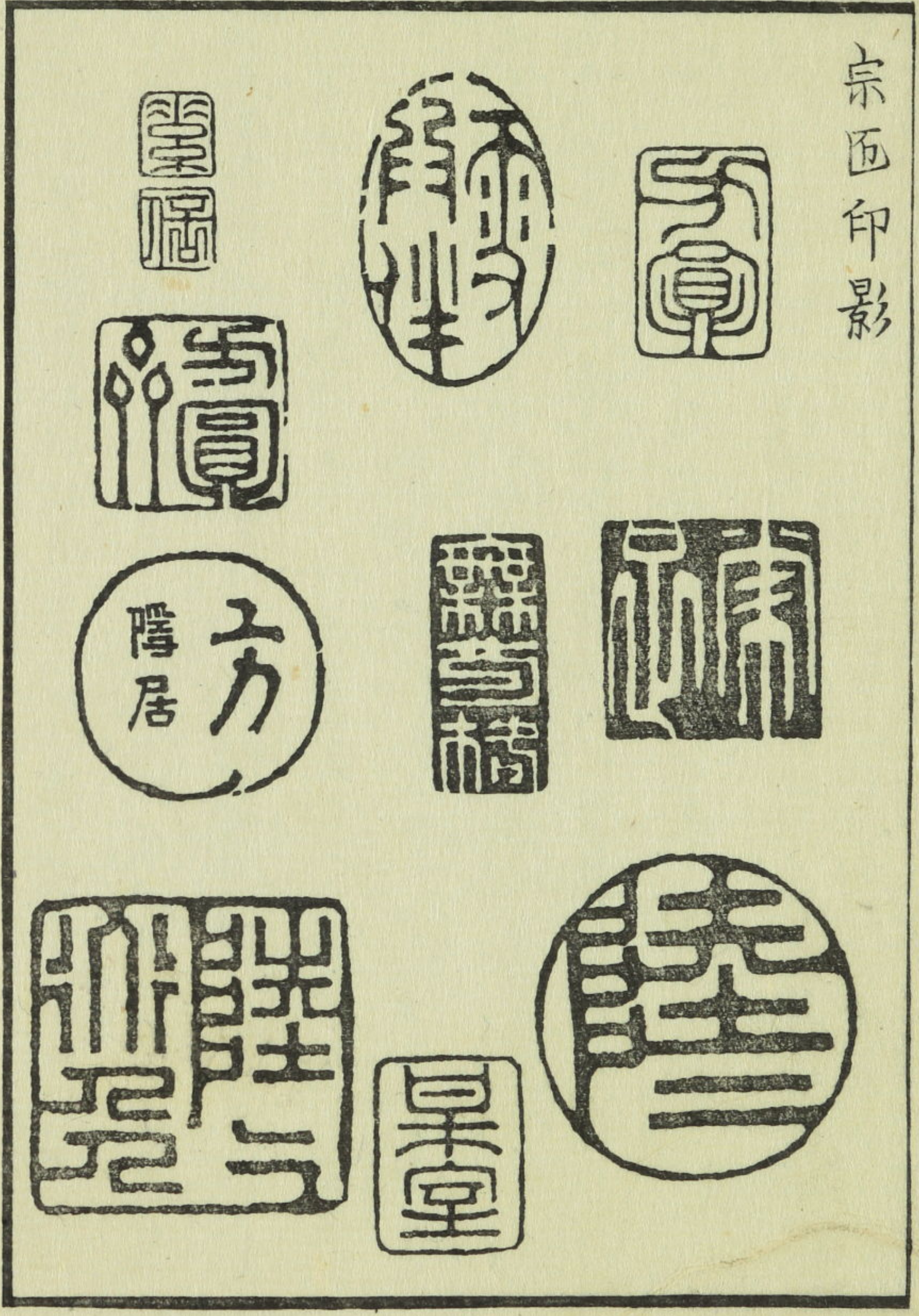
梅室之墓

之之

同十二月朔日赤心双林寺にて追善會儀行無り
その外義仲吉小剝毛塚加賀小島塚 同寺日社小
菜の香の白碑江戸大坂及び國々の社中追善の
は遠くまゝふいとまある屯実小中興の宗匠とあふ
うさうめや

其のひまうと見ゆの後彼寺まゝの
としし徑出まを虫つとこれと藤家の
ありこゝへもれまのまのまのまの
う——まの——

宗匠印影



尾張知多郡半月村
山本氏翁板



